

図書館と書物の保存の歴史

07L4010 岡本 佳奈

1. 図書館の歴史

(1) 西洋は古代では粘土板やパピルス巻子を壁に作った窪みや筒に入れ保管していた。中世になると修道院を中心に写本文化が発達し出版・保管の機能を果たしていた。図書館の中に書写室があり、修道僧が写字を行った。1450年にドイツのグーテンベルクで活字印刷術し書物の出版が伸び市民にも読書層が広がった。近代には市民が利用する社会的機関として図書館が機能しだした。18世紀には近代図書館が発足しだし、1890年代には閉架式から開架式が広まり出した。

(2) 日本は経籍、仏典の巻子を中心に保管された。大宝元(701)年に大宝律令が成立し、図書館の組織内での位置がはっきりしたものとなる。僧侶文庫時代になると地方の寺院などでも開版活動が行われるようになり、金沢文庫・足利文庫など保管だけではなく利用を目的とする文庫も出現しだした。武家文庫時代には木活字印刷が広まり、出版業が成立したことによって庶民にも読書層が広まった。明治以降 19世紀から近代図書館が出現しだした。

2. 和洋書物の特徴

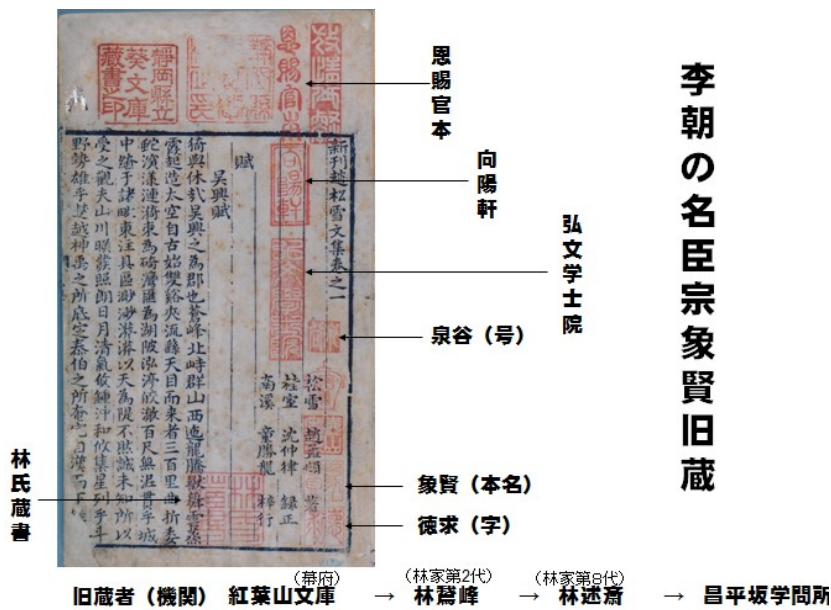
	洋書	和書
卷子	パピルス、羊皮紙	和紙
冊子	羊皮紙	和紙
装丁	両面記載	片面記載 (和紙と墨のため)
冊子の表紙	硬い表紙 (木または金属)	和紙の表紙
書誌の記載	表紙、ハーフカバー、背	表紙、背、貼紙
ノンブル	あり (ページの中)	あり (紙の折れ目)
初期の保管場所	横置き / 箱 / 教会・修道院	横置き / 箱 / 文庫
後の保管場所	縦置き / 書棚 / 図書館	縦置き / 箱 / 文庫
分類整理	本単位の整理	箱単位の整理
閲覧方法	書見台 (本を鎖で固定)	書院
写本	修道士	僧侶
後の保管場所	縦置き / 書棚 / 図書館	縦置き / 箱 / 文庫

3. 調査

静岡県立中央図書館葵文庫と西尾市岩瀬文庫を調査した。

和書の小口には巻数と書名が記載されており、本が横積みされていたことがわかる。また、書物に貼った短冊を垂らし横積みでも書名や巻数が判断できるようにもしていた。

表紙の裏に貼られた貼紙には分類番号、著者名、書名、出版年などの書誌事項が記されている。所蔵印や前に貼った貼紙を剥がさずに新しい貼紙を貼っていたため、書物がどのような経緯で保管されてきたのかがわかる。



趙松雪文集[石田德行. 葵文庫の成り立ちとその特色. 静岡市美術館開館記念講演会. 2010/5/9.より]

葵文庫の分類

蕃書調所の蔵書目録 (1857年刊が最新)

一番/ 天文類	二番/ 地理類	三番/ 文則類	四番/ 窮理類
五番/ 分離類	六番/ 動物類	七番/ 植物類	八番/ 政事類
九番/ 伝記類	十番/ 航海類	十一番/ 兵法類	十二番/ 建築類
十三番/ 器械類	十四番/ 数学類	十五番/ 医学類	十六番/ 雑著類
十七番/ 辞書類			

4. 考察

東洋も西洋も本は始め横置きで保存されていたという点や、書籍の形が卷子から冊子体になる経緯があるという共通点もある。書籍の形の変化とともに箱に入れる、書棚を使うなど保存・整理の仕方も変わってきたことがわかる。

図書館・書物の歴史に宗教が関わっていること、保存する場所から利用する場所に変化してきたことがわかった。